卒業論文

# 音楽活動の中で生まれる路上という居場所

## ――福岡市で活動するストリートミュージシャンを事例に――

2014 年度入学
九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野

2018 年 1 月　提出

# 要約

近年サードプレイスに基づいた居場所づくりが行われている。本研究は、これまで日本においてサードプレイスとして路上を捉えたものが少ないことに注目して、居場所としての路上についての可能性を調査したものである。福岡市天神地区の警固公園周辺で活動するストリートミュージシャン達の活動についての調査を通して、路上ライブがストリートミュージシャン達にとって日々の生活のなかでどのような意味づけを持つものなのかについて調査した。

第 1 章では、以上で述べた本研究の背景と問題意識について述べた。

第 2 章では、これまで、ストリートミュージシャン達がどのようにとらえられてきたのかについて、先行研究を整理した。その結果、コミュニケーションの場としてなぜ路上が選ばれているのか、またそこで行われる即時的なコミュニケーションがどのようなものか、路上と他の演奏空間の相違点についての整理が不十分であった。

第 3 章では、調査地である警固公園周辺についての情報を整理した。また、福岡市の音楽文化について 1970 年代からの現在までの変遷をたどった。

第 4 章では、調査の概要について述べた。

第 5 章から第 7 章では、A から D の、それぞれの調査対象者に対する聞き取り調査の分析を行った。聞き取り調査の結果得られた知見は以下のとおりである。

1 つ目は、ストリートミュージシャン達は観客との即時的なやり取りに路上ライブの魅力を感じていたことである。

2 つ目は、ストリートミュージシャン達は居場所としての路上を獲得していたことである。公共空間である路上は、オルデンバーグ（Oldenburg 1989=2013）が述べたサードプレイスのように、必ずしも居心地が良いというだけの場所ではなかったが、対象者のそれぞれの意味づけにおいて、居場所を形成する第 3 の居場所としての可能性を持つ場所であった。

3 つ目は、ストリートミュージシャン達は演奏空間としての路上のもつ自由な雰囲気に魅力を感じていることである。今回の調査では、ライブハウスでの対比において、木島(2009)の述べた安心感とは異なる新たな安心感によって、安心感から、ストリートミュージシャン達は路上での活動を続けている。

これを受けて、最後に、役割から解放される場所としての路上についての可能性について述べた。

目次

1　研究の背景と問題の所在 ..... 1
1.1　研究の背景 ..... 1
1.2　問題意識 ..... 1
2　先行研究の整理 ..... 3
2.1　本章の流れ ..... 3
2.2.　ストリートミュージシャンに関する研究 ..... 3
2.2.1 山口晋の調査 ..... 3
2.2.2　「非-芸人」的ストリートミュージシャンの登場 ..... 3
2.2.3　木島由晶の 3 つの分類 ..... 4
2.2.4 ストリートパフォーマーとメディアとのかかわり ..... 4
2.4　先行研究に対する指摘 ..... 6
3　調査地の現状 ..... 7
3.1　警固公園について ..... 7
3.2　福岡市のポピュラー音楽文化について ..... 8
3.2.1　1970 年代―「照和」の時代 ..... 8
3.2.2　1980 年代―フォークからロックへの転換 ..... 9
3.2.3　1990 年代―新しいムーブメント ..... 9
3.2.4　2000 年代―福岡市の音楽産業に対する行政支援 ..... 10
3.2.5　2010 年代 ..... 11
3.2.6　福岡市の音楽文化の変遷を受けて ..... 11
4　調査の概要 ..... 12
4.1　調査の概要 ..... 12
4.2　分析の焦点 ..... 13
5.　A に対する聞き取り調査の分析 ..... 14
5.1　聞き取り調査の分析 ..... 14
5.1.1　A について ..... 14
5.1.2　音楽を始めたきっかけ ..... 14
5.1.3　路上ライブを始めたきっかけ ..... 15
5.1.4　路上とライブハウスの相違について ..... 16
5.1.5　インターネットでの活動について ..... 16
5.1.6　警固公園と他の場所での路上ライブの相違について ..... 16
5.1.7　観客との交流について ..... 17
5.1.8　他のミュージシャンとの交流について ..... 18
5.1.9　日常生活の中の路上ライブの位置づけ ..... 19

5.2　A に対する聞き取り調査の分析のまとめ ..... 20
6　B と C に対する聞き取り調査の分析 ..... 22
6.1　聞き取り調査の分析 ..... 22
6.1.1　B と C について ..... 22
6.1.2　音楽を始めたきっかけ ..... 22
6.1.3　路上ライブを始めたきっかけ ..... 22
6.1.4　ライブハウスでの活動について ..... 23
6.1.5　ネットでの活動について ..... 24
6.1.6　警固公園とその他の場所での路上ライブの相違について ..... 24
6.1.7　観客とのやりとりについて ..... 25
6.1.8　他のミュージシャンとの交流について ..... 27
6.1.9　日常生活の中の路上ライブの持つ意味 ..... 28
6.2　B と C に対する聞き取り調査の分析のまとめ ..... 32
7　D に対する聞き取り調査 ..... 34
7.1　聞き取り調査の分析と考察 ..... 34
7.1.1　D について ..... 34
7.1.2　音楽をはじめたきっかけ ..... 34
7.1.3　路上ライブをはじめたきっかけ ..... 35
7.1.4　路上とライブハウスの相違について ..... 37
7.1.5　路上ライブとインターネットでの活動の相違について ..... 39
7.1.6　警固公園での路上ライブと他の場所での路上ライブ ..... 40
7.1.7　観客との交流について ..... 42
7.1.8　他のミュージシャンとの交流について ..... 42
7.1.9　日常生活における路上ライブの位置づけ ..... 43
7.2　本章のまとめ ..... 45
8　考察 ..... 47
8.1　分析のまとめと考察の焦点 ..... 47
8.2　役割から解放される路上 ..... 48
8.3　居場所としての路上の可能性 ..... 50
あとがき ..... 51
【文献】 ..... 53
謝辞 ..... 55